

仙台市の新型インフルエンザ対策

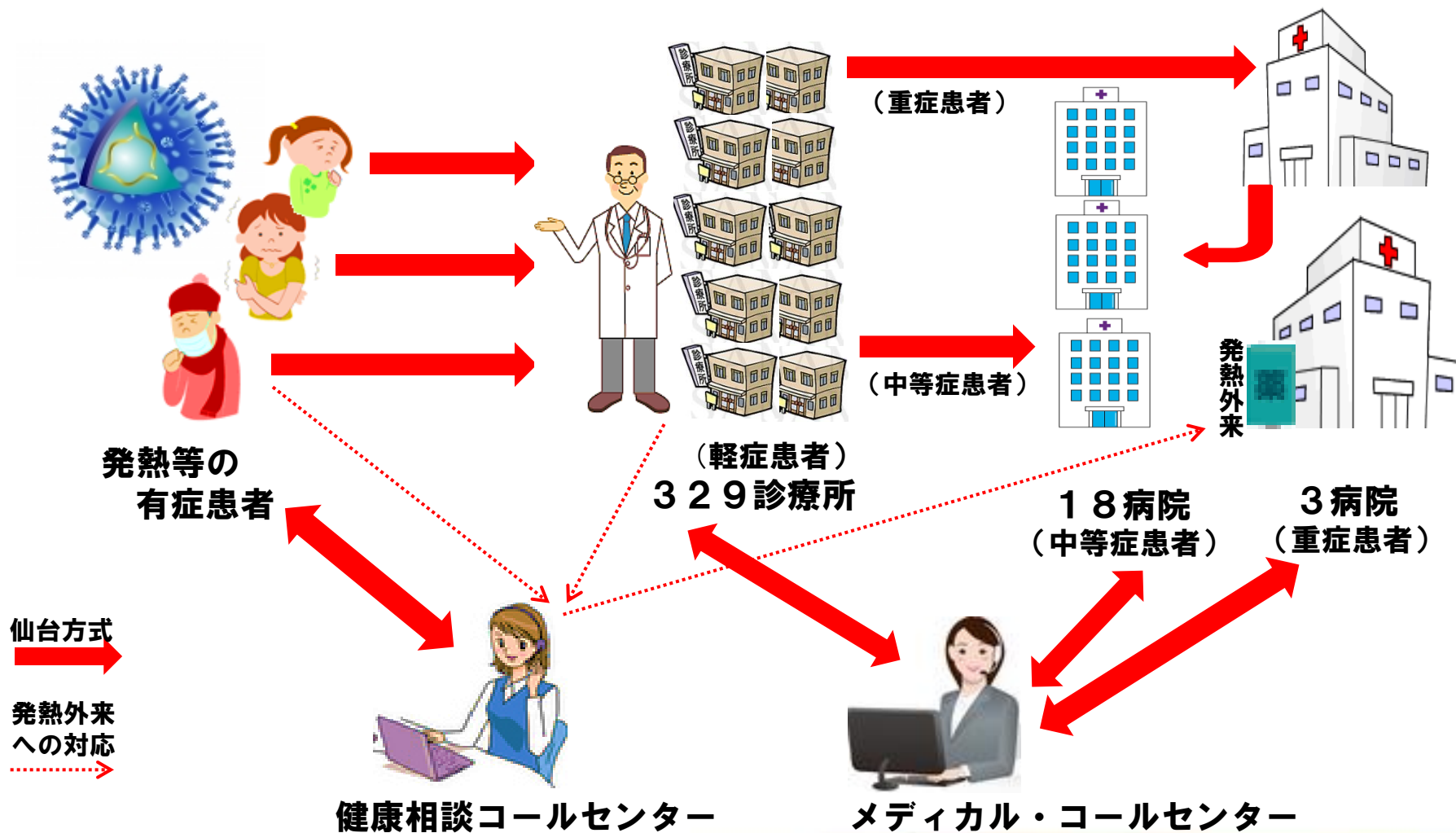
～診療所・病院が連携した「仙台方式」の医療提供体制～

2010年5月12日

仙 台 市

仙台市の新型インフルエンザ対策

「仙台方式」の医療提供体制



「仙台方式」の医療提供体制とは

～仙台市メディカル・アクションプログラム～

1. 医療の確保

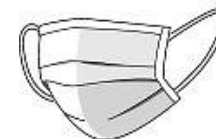
(1) 軽症患者は、「かかりつけ医」など最寄の診療所を受診する。

市内329診療所が協力申出：内科系232カ所、小児科系43カ所、その他54カ所
→仙台市は、協力申出の診療所に、従事者用の予防薬とマスクを配付



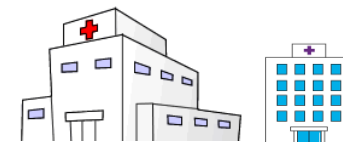
(2) 重症患者（中等症を含む）は、病院で入院治療を行う。

市内21病院が協力申出（→病院の特徴・意向に応じた機能分担）
重症患者 → 3病院
中等症患者 → 18病院



(3) 仙台市が、メディカル・コールセンター（24時間対応）を設置する。

診療所・病院への情報提供・問合せ対応（現実的には「健康相談コールセンター」で対応）
（実施例）国方針、国内・市内の流行状況、海外機関からの最新知見
薬・資材の流通状況、重症患者の受入調整など



2. 感染予防・感染拡大抑制

- ① 予防知識の市民啓発、予防接種（インフル・肺炎球菌）の勧奨、小学校欠席率調査・公表
- ② 健康相談コールセンター（24時間対応）、学校休校要請、報道機関と連携した情報提供等



「仙台方式」はマスコミが名付け親

～仙台市医師会との信頼関係～

- H19. 4～ **新型インフルエンザ感染予防講習会の開催**（延べ50回）
手洗い・うがい・マスク着用など、市民レベルの対策を普及啓発
- H20. 4 **仙台市医師会との初協議**



＜共通認識＞

- (1) 感染スピードは速く、当初からパンデミックを想定した対策を検討する。
- (2) 患者の受診行動を踏まえ、現実的な医療提供体制を構築する。

＜市医師会の意向＞

- (1) 医師会は、新型インフルエンザ治療に正面から取り組む。
- (2) 仙台市に対する要望
 - ① 流行状況など最新の情報提供
 - ② 診療所従事者への予防薬の配付
 - ③ 重症患者の入院先病院の確保



- H21. 2 **仙台市メディカル・アクションプログラムの策定**
- H21. 4～ **仙台市メディカル・ネットワーク会議での協議**（これまで5回開催）
メンバー：感染症専門家、仙台市医師会、市内主要病院、
仙台市薬剤師会、宮城県看護協会、宮城県、仙台市
- H21. 5～ **仙台市医師会感染症検討委員会での協議**
仙台市：オブザーバー参加
- H21. 5 **仙台市医師会新型インフルエンザ研修会の開催**
診療所・病院関係者に協力要請
- H21. 6 **マスコミが「仙台方式」と名付ける**



今後の取り組み

～「仙台方式」の進化を目指して～

1. 仙台市感染症対策タスクフォース

東北大学・仙台市医師会・仙台市による「仙台市感染症対策タスクフォース」を設置し、H1N1の第二波や新型インフルエンザ（H5N1）の発生に備え、医療の現状を踏まえた対策を検討する。



2. 仙台市メディカル・ネットワーク会議

タスクフォースの検討を踏まえ、仙台市内の医療関係者の連携強化を図ると共に、最新の知見に基づいた正確な情報提供により、市民・事業者へ冷静な対応を促す。

